

第二次多摩市読書活動振興計画 有識者会議 令和6年度第一回 記録

日時：	令和6年5月30日（木）午後2時から4時まで
場所：	多摩市立中央図書館 2階 活動室1

開会前	
辞令交付式	
資料確認（差し替え資料3・資料4、拡大補助資料6）	

1 委員長及び副委員長の選任について	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 欠席委員の連絡、自己紹介（1人1分程度）、事務局紹介 ・ 設置要綱第5条に基づく委員長と副委員長の選出 <p>委員長、副委員長とも委員より推薦あり。出席委員から異議なく承認。</p>	
委員長	推薦、承認ありがとうございます。今回は「多摩市読書活動振興計画」と「多摩市子どもの読書活動推進計画」というふたつの計画を合わせるという、大変大きな責任を負うことになったが、皆様のご協力をお願いしたい。
副委員長	専門家ではないが、公立図書館管理・運営していた経験がある。行政マンとしての視点もあるので、皆様とがんばりたい。

2 (仮称) 第二次多摩市読書活動振興計画について 概要・策定体制・スケジュール等	
事務局	配布資料に沿って説明。
委員	<p>資料1枚「有識者会議開催に当たっての意見」（A4両面）を配布し説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「読書活動振興計画」ではなく「図書館の計画」であるはず。名称は「基本計画」などとしてほしい。 ・ 第一次読書活動振興計画では、公共施設の見直しプログラムと関連して地域館のことで非常に紛糾した。（仮称）第二次ではしっかり触れるべき。 ・ 中央図書館の開館に向けて、市民の意見も踏まえて基本構想・基本計画を作成した。第一次計画の策定当時とは前提や環境が大きく変化しているので、手直しで済むはずはない。 ・ 子どもの読書活動推進に関しても、この場だけの議論になってしまうのはよくない。作業部会のようなものを作り、その成果を共有していく場にしたい。 ・ 策定委員が傍聴席に1人もいない。策定委員との意見交換の場も必要と考える。 ・ 5月29日時点で行政資料室に先日実施した策定委員会や本日の有識者会議の情報がなかった。 ・ 最終目標値を固定的に考えず、単年度と中期の目標をローリング方式にするべきではないか。 ・ 「ボランティア」という言葉は注意して使うべき。単に「一緒にイベントをしました」ではなく、パートナーシップをどう構築していくかも考えるべき。 ・ 関心を高めるためにも、計画に関する資料を利用者の目に触れるところに置いて欲しい。 ・ 8月の利用者懇談会の開催は毎年度順送りの東寺方、中央だけでなく今回は全館でやってほしい。有識者会議の委員も出席して、地域館の実情を把握して欲しい。
委員長	今の意見に事務局から現時点での回答はあるか。
事務局	できる限り対応する。
委員	「市民ボランティア連絡会」は略称。「第三次子どもの読書振興計画市民ボランティア連絡会」

	が正式。このような場では正式名称にすべき。 実際に活動しているボランティアの意見を吸い上げる機会がほしい。
事務局	名称については今後正式名称に修正する。意見は広く募れるよう考えている。
委員	確認。2つの計画を統合するとのこと。資料3の2計画の位置づけで根拠法に「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」とあるが「読書バリアフリー計画」策定の努力義務に 応える内容も盛り込まれるか。
事務局	読書バリアフリーについても盛り込む予定。
委員長	私も本日初めて委員から提出いただいた資料を目にした。個人的な意見を述べたい。 本有識者会議は「多摩市立図書館の基本方針・運営方針」に基づき、(仮称)「読書活動振興計画」の策定に関わること、計画策定にあたっては策定委員会があり、我々は意見照会を受けて意見を述べる立場であること、策定に至るまでの運営は市・図書館が行うことを理解した。これらに関して、有識者会議が関わる部分、関わらない部分を事務局に整理していただきたい。 委員から出された「策定すべきは「多摩市立図書館の基本計画」である」という意見には共感する。

3 多摩市読書活動振興計画と、第三次多摩市子どもの読書活動推進計画の検証（成果と課題）	
事務局	資料4・5・6（7）に沿って説明。
委員長	成果・課題について説明いただいた。時間に限りがあるので、これまで発言していない方からご意見があればうかがいたい。
委員	「読書が好き」の割合が高く、タブレットなどの誘惑が多い中、良いところだと思う。 利用数について、小学2年生で全員カードを作るのに数が少ないのが課題。
委員	絵本離れを感じている。特に親の本との関わりが希薄。3・4歳健診で絵本の選び方などの紹介をしてもらえるとよいと思う。団体貸出は大変興味がある。セット貸出を年中できるようにしてほしい。
委員	団体貸出は、本数が揃っているで今のところ使っていない。当幼稚園では絵本を読んでいる子どもが減っている様子は見られない。 現状の問題としては本の劣化。団体貸出の未利用については汚破損の責任も心配されている。本はみんな好きなので、近くにあれば使いたい。幼稚園での貸出も毎週ある。多摩市はせっかく図書館が充実しているので、どう繋いでいくかが課題。「だれ一人取り残さない」のは大切。
委員	保護者の本離れを感じている。共働きが多い状況で、親は「時間がない」で割り切ってしまう。スマホやタブレットでやらざるを得ない。関心のない方に関心を向けていただけるかが課題。

4 （仮称）第二次多摩市読書活動振興計画におけるアンケートの進捗と一般アンケートの集計結果について	
事務局	資料8に沿って説明。一般のアンケートは未利用者の母数が少なかった。
委員	回答館に偏りがある可能性があるのでは紙のアンケートの回収場所の内訳も見たい。
事務局	次回提出する。
委員	自由記入欄も次回か。
事務局	次回提出する。

5 (仮称) 第二次多摩市読書活動振興計画の骨子案について	
事務局	資料9に沿って説明。表記の誤り、地域館の記載について目標3ではなく目標4となる。
委員長	1点確認したい。資料9に示された体系をいつ頃決定するのか、事務局で想定しているスケジュールを教えてください。
事務局	この場で意見をいただくことも難しいと思うので、この後、メール等で期日を決めてご意見をいただくようにしたい。次回策定委員会(7月)で枠組みは確定したい。
委員長	資料9は事前配布資料として先週届けられ、本日意見交換した。これを基に第二回策定委員会決定では、本有識者会議から意見を提示することが不十分であると思われる。 事務局からは個別に意見を申し出る機会を設けるとのことであった。あらためて第二回策定委員会後のことも、弾力的に考えてほしい。委員から意見はあるか。
委員	基本理念に「すべての子どもに読書のよろこびを」とあるのに違和感。図書館サービスは「読書推進」だけではない。持続可能な図書館ネットワークを維持していくこと、多摩市や周辺地域の潜在的な利用者を含めて均質なサービスを届けるということがとても大切。それを保障するうちのひとつとして子どもの読書もあるはず。公共の公立図書館である以上、市の施策を含めて地域課題をどう解決するかを示すことが大切なポイント。この骨子案からはそういったものがまったく浮かんでこない。現行の計画に引きずられている印象。「すべての市民が均質なサービスを享受できる」ということがわかるキーワードが必要。 中央館は潜在的な利用者を掘り起こしたかもしれないが、その運営に手いっぱいになっていて、地域館の館長が兼務体制で地域館では話のできる館長がいないのが多摩市の現状。また、和田地区などはすぐ近くに図書館がないので、不便を感じている。これからはアウトリーチ活動を含めて全域サービスをどう保障していくかが大切。基本理念については、これを撤回いただき「すべての市民が均質なサービスを享受できる」という表現に変えていただきたいと思う。 「弾力的な管理運営」が非常に危険。資料3の「地域館の大規模改修」などが先に決まって、計画がそれに従うのではよくない。どの地域においてもニーズを踏まえたサービスが保障できるように考えてほしい。 資料3「唐木田・東寺方の運営」について。育てる会が開催した「しゃべり場」では出席した市長からも「中核となる職員はきちんと正規職員を雇って育成していく」という発言があった。「弾力的な管理運営」という言葉があるために、地域館の再編だとか、例えば正規職員ではなく指定管理者にゆだねるなどの議論を呼びかねない。もっと違う目標、例えば職員体制も「均質なサービスを支える職員体制を構築していく」という内容にすべき。 取り組み14の「ボランティア活動の促進」について市民合意はないと思う。5月24日開催の図書館協議会でも、この春に実施した「イベント企画会議」に関わる図書館事務局の資料にある「ボランティアの育成」というキーワードについて、委員から違和感が表明された。いきなり「ボランティア活動促進」という言葉ではなく、利害関係者同士のパートナーシップを構築していくような表現の中で、多摩市の市民参画のキーワードとなっている「協創」を実現するために公共図書館に何が必要なのか、何ができるのか考えられるキーワードにしてほしい。
委員	資料9「骨子案」について。「目標、基本理念、基本目標」となっているが、関係性が分かりにくい。おそらく「基本理念」が一番上にあって、次に「目標」があって、「基本目標」ではなく「方針」ではないかと思う。きちんと整理して、市民にもわかりやすくしてほしい。 資料4についてお願い。電子図書館やデジタルコンテンツの利用実態について、次回でよいので教えてほしい。
副委員長	図書館協議会からも、各々の自己評価などを図書館のHPに掲載しているので見てほしい。

	資料5、図書館協議会でも話題になったのだが、活動指標の読み方について。目標や何らかの狙いがある、達成するために仕掛けたものの結果を数値化したもの。数値が高いにこしたことはないが、単純に数値が上がったからと言って狙いが達成できたとは限らない。逆に数値が上がらなかったからといって、狙いが達成できていないとも限らない。指標の数値の上下だけで効果の判断はできないので、注意してほしい。
委員	質問。資料9の今後の体系【基本的な考え方】1、「第三次子どもの～」の一体化について、子どもへのサービスの部分が「第四次」と捉えて良いのか。
事務局	第三次の次なので第四次の位置づけではあるが、名称として出てくるのはひとつの「(仮称)第二次読書活動振興計画」の方。本日の体系図(案)で言えばこの基本目標2のところには児童の読書が入ってくる形になる。「第四次」の名称はないが、引き継いだものになる。
委員	国の法律との整合性は。
事務局	法律をもとに作った子どもの読書計画として引き継ぐ。

6 次回以降の有識者会議日程について	
委員長	さまざまな意見を頂戴した。事務局には本日の意見の整理と意見聴収のやり方などを検討し、委員に共有をお願いしたい。次回以降についての説明をお願いしたい。
事務局	特に資料9について、意見をいただいた。2週間程度期間を設けて改めて意見をいただきたい。今年度、有識者会議は5回予定している。次回は8月中旬を想定しているが、候補日を複数挙げて調整させていただく。
委員長	発言できない委員がいるなど、つたない司会進行で申し訳ない。 まだまだ前途多難な部分がある。例えば子どもの読書活動計画は、読書活動振興計画との統合により押し込められてしまっている感も否めない。事務局には丁寧に検討していただきたいし、我々も有識者会議の委員として、また図書館に関わる者としての誠意が伝わるようにしていきたい。皆様にはご協力をお願いしたい。

閉会

- 資料1 第二次多摩市読書活動振興計画有識者会議設置要綱
- 資料2 第二次多摩市読書活動振興計画有識者会議 委員名簿
- 資料3 (仮称)「第二次多摩市読書推進計画」の策定について
- 資料4 多摩市立図書館 統計資料
- 資料5 多摩市読書活動振興計画取り組み状況
- 資料6 第三次多摩市子どもの読書活動推進計画推進状況
- 資料7 (別紙)第三次多摩市子どもの読書活動推進計画推進状況
- 資料8 多摩市立図書館アンケート結果(一般)
- 資料9 第二次多摩市読書活動振興計画 体系図<骨子>(案)